

成果報告書

地域創造学類 地域プランニングコース

北野梨花 井上郁也 竹内唯 森田果奈絵

私たちはインターンシップの一環として加賀市を核とした3つの温泉郷に目をつけた。山代・山中・片山津といえば加賀市の有名温泉として観光においても大々的にアピールしている。しかし、現状ではバブル期に乱立した温泉旅館が不況の影響も相まって次々と利用客の急減、あるいは休業の危機に陥っている。そこで、大学が立地していない加賀市に学生目線での新しい取り組みを提案し、温泉地加賀としての復興を図ろうと考え、取り組みを開始した。



(1)加賀市長との対談の様子

このインターンシップでは、実際の活動が始まる前と後とで内容に変更があったことをご了承いただきたい。活動が始まる前は「温泉旅館をツールとした、外国人（留学生）との交流を深める方法と場所を探る」というものであった。これは温泉街での観光産業に特に力を入れている加賀市において、ヨソ者（外国人、あるいは学生）をどのように誘致すればより効果的なのかを、私たち学生のような若者の視点から考えるというものである。そのため、私たちは事前準備として金沢大学に在籍している留学生を対象としたアンケート調査を実施した。しかし、実際にインターンシップ活動が始める際に、以前に活動内容を設定した時点と、加賀市の状況・私たちがインターンシップ先から求められるものが変わったことから、この内容は変更となった。変更となった点は、ツールを温泉旅館に囚われず、広く加賀市の良い点を見つけて独自のツールを見つけ出すという点と、ターゲットを外国人（留学生）に限定しないという点である。そこで私たちはグループ4人で異なる4つの旅行プランを加賀市へ提案するという活動にシフトした。加賀市を核とした旅行プランを自由に考えることができる一方で、一風変わった「若者視点での旅行プラン」を考えることが求められた。そこで、十人十色の嗜好がある、との考えから、各自が自分が行きたいと思うことのできる旅行プランを作成するために、個人個人での活動を主に行うこととした。

活動内容として、主にインターンシップ受入先であるたぶんかネット加賀さんの活動拠点である「蘇梁館」で情報収集や旅行プランについての各自の考えをまとめあげ、必要に応じてヒアリング調査や現地調査なども行った。また、加賀市長である寺前秀一氏に自分達の活動について報告、懇談を行い、インターン期間中に開催された「加賀十万石祭り」に



(2)地域の方々と学生との交流風景

参加し、たぶんかネット加賀さんのブースでフィリピンやブラジル出身の在日外国人の方々と一緒に多国籍料理を調理し、販売のお手伝いをさせてもらった。そして、インターンシップ期間終了後には再び蘇梁館を訪れ、インターンシップ期間中にお世話になった方々や加賀市の観光交流課の方の前で自分達が考えた旅行プランの最終報告会を行った。

それぞれが提案する旅行プランについて簡潔に述べたいと思う。第一に加賀市の地酒をテーマとした旅行プランである。加賀の地酒として有名な「常きげ

ん」の蔵元である「鹿野酒造」を見学し、利き酒を実施する。また、美味しくお酒を楽しんでもらうために、大聖寺の町並みを歩いて散策するウォークラリーも実施する。第二に、地元住民を対象とした、加賀の良さを改めて知ってもらうための旅行プランを提案する。認知度が低いが、加賀市で行われている人にも環境に優しい様々な農法や、鴨の伝統猟法である坂網猟について知ってもらい、地元意識を高め、これらの活動を後世に伝えていくことを目的としている。第三に、地元住民との触れ合いをテーマとした長期滞在型のツアープランがある。長期滞在することで地元の人々との交流を深め、大聖寺に住む人々の良さを知ってもらう。また、facebookなどのSNSを利用することで、地元住民しか知らないような情報を外から来る人へ発信する。最後に、女性を対象とした女子力アップがテーマの旅行プランを提案する。加賀温泉郷にある様々なパワースポットを、ダイエットのために自転車で周り、その1日の疲れを温泉で癒す。また、宿泊先周辺の飲食店の協力を得て、各店のメニューのカロリー表を作成する。

私たちはこのインターンシップを通して、学生（若者）、ヨソ者の目線で加賀市の新たな良さを考察し、実際に体験することで、今までにない新しいツアープランを提案させてもらい、地域の観光事業への貢献に繋げることができた。また、加賀市長との対談が実現し、我々からの質問や加賀市の疑問に対して市長地震の見解を直接伺うことができた。そして、大学がない加賀という地域の伝統的なお祭りに私達金沢大学生が参加し、お手伝いをすることで、地域に新たな活力をもたらすことができた。

私たち自身がインターンシップを通して得られたものは沢山ある。個々での活動が多かったので、一人一人が責任を持って行動しながらも、チーム内でも意見交換や目的の再確認を行いながらそれぞれの案を固めていくという作業を通じて、責任を持つことの重要性和、チームワークを高めることができた。また、社会人の方々と接する機会が多かったことで、社会人としての最低限の礼儀作法を再確認することができた。インターンシップ期間

中は加賀市にある伝統的建築物である町屋に宿泊し、2週間の共同生活を通して協調性を身につけることができた。共同生活とインターンシップ活動を経験し、地域の方々と交流を深めることで、その地域や地元の人々への愛着がわき、今後も繋がりをもち続けていきたいと強く感じた。